

第 8 3 6 回

定例教育委員会会議録

日 時 平成 2 9 年 9 月 2 5 日 (月) 1 0 : 0 0 ~

場 所 市役所第 2 会議室

益田市教育委員会

第836回 教育委員会定例会

招集年月日 平成29年9月25日（月）10時00分～

招集場所 市役所第2会議室

議事日程

第1 会議録の承認

第2 教育長報告

第3 議題

報第39号 平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

報第40号 第527回益田市議会（定例会）一般質問について

報第41号 平成29年度9月補正予算について

第4 その他

(1) 情報提供

- ・企画展「石見の戦国武将」の開幕について
- ・未来を担うひとづくりに係る取組について
- ・文部科学省の機構改革について
- ・平成29年10月学校給食献立について

(2) その他

出席者

| | | |
|-------|-------------------|---------|
| 教育委員会 | 教 育 長 | 柳 井 秀 雄 |
| | 教 育 委 員 | 舟 橋 道 恵 |
| | 教 育 委 員 | 水 上 芳 枝 |
| | 教 育 委 員 | 渡 辺 隆 |
| | 教 育 委 員 | 中 野 純 |
| 事務局職員 | 教 育 部 長 | 藤 井 寿 朗 |
| | ひとづくり推進監 | 大 畑 伸 幸 |
| | 教育総務課長 | 山 本 裕 士 |
| | 学校教育課長 | 武 内 白 |
| | 学校教育課参事 | 城 市 博 明 |
| | 社会教育課主事 | 青 木 悠 太 |
| | ライフキャリア教育コーディネーター | 檜 垣 賢 一 |
| | 人権・同和教育推進室長 | 田 中 智 |
| | 文化財課長 | 木 原 光 |
| | 美都分室主幹 | 塩 満 保 |
| | 匹見分室長 | 藤 井 文 江 |
| | 教育総務課長補佐 | 斎 藤 一 臣 |

柳井教育長　　おはようございます。定刻となりましたので、第836回定例教育委員会を始めさせていただきます。まず、教育委員の皆様方には、先々週、そして昨日、一昨日と小中学校の運動会にお出かけいただきまして、大変ありがとうございます。先週が台風で、ちょっと予定が狂った方もおられるかと思いますが、大変お世話になりました。それでは早速、議題のほうに入りたいと思います。

第1 会議録の承認

柳井教育長　　会議録の承認につきましては、ただいま頂きましたので、次に参ります。

第2 教育長報告

柳井教育長　　続いて第2の教育長報告についてご説明いたします。2ページのほうになりますが、特に4日、委員さんにも出ていただきましたが、少年の主張益田市大会がございまして、中学生が今感じていること、考えていることを立派に発表していただきました。そして、その代表が明後日グラントワで、今年度は県大会がこの益田で行われます。そこに最優秀賞、優秀賞の方が、今年度は地元ということで3名参加されることになっておりますので、時間が許されればご参加していただいて、中学生の主張を聞いていただければと思います。

11日に歴史民俗資料館の案内板が、昭和58年に歴史民俗資料館が開館したわけですが、それから34年の間、雨風に当たっておりまして、朽ちていたり、案内板の文字が実はほとんど薄れて読めない状況になっておりました。それを叙勲者会の皆様の善意によりまして、きれいに案内板が建て変わりましたので、お知らせしておきます。

それから、金曜日に9月議会が終わりました。また報告があるかと思いますが、よろしくをお願いします。

それから、19日に大正大学の辞令交付式というのがありますが、これにつきましては、大正大学地域創生学部が益田に入って、益田の魅力などを発見し、何らかの形で益田市に寄与していこうという取組を、7名来られて、40日間の日程で益田に滞在して、研究をされることになっております。現在、入っている最中です。3年なったらまた同じ人が戻って、またこの益田で同じように研修されるというふうになっております。

この土曜日に囲碁サミット2017というのが香川県坂出市で行われまして、参加させていただきました。全国から13市町が参加して行われております。どこの市町も囲碁の棋聖を出しているとか、囲碁について非常に熱心な発表がありました。以上、報告を終わりますが、何かご

質問等あればお願いします。

舟橋委員 9月2日の益田市の私立の幼稚園教育研修会なんですけれども、これは保育園は関係なくて、幼稚園だけなんです。

柳井教育長 そうです。参加しました幼稚園が市内に3つあります。天使幼稚園、益田幼稚園、吉田幼稚園、この3園と浜田市の幼稚園が1園、その4つの幼稚園が参加して研修を行っております。人権同和に関することや、山口県のザビエル高等学校を退職された校長先生の話とか、そういった研修をされました。

舟橋委員 20日にJA経営状況説明会というのがありますが、教育とどんな関係があるのかなとちょっと思ったんですが、いかがでしょうか。

柳井教育長 経営状況ですから、実際に、例えば作物でどれだけの収入があつてというふうな経営状況の説明会でした。三役と産業経済部の職員が呼ばれております。

教育については、日頃から関わりがありますので、お礼を申し述べてきました。JAについてはいろいろなことで学校に入って、例えばメロン農家等の見学はもちろんですし、授業の中で話をさせていただくようなことにもJAに関わっていただいて、取りまとめ役になっていただいています。ほかにはよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

第3 議題

○報第39号 平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

柳井教育長 それでは、議題のほうに入りたいと思います。報第39号、平成29年度全国学力・学習状況調査結果についてお願いします。

城市参事 事前に資料を送付しておりますが、10ページものの冊子をご覧ください。先月の定例教育委員会でも速報ということで、数字とか内容等はお知らせいたしました。それを基に、今回様々な分析結果等を入れております。前回ご了解いただきましたとおり、議会のほうでも総務文教委員会のほうで報告をさせていただきましたが、その時の資料と同じものをお手元にお配りしています。

この中で特に顕著なところで言いますと、2ページをご覧くださいと思うんですが、正答率の分布状況が棒グラフと折れ線であります。一番下の左側の中学校の数学Aをご覧くださいと非常に分かりやすいかと思うんですけれども、折れ線が島根県と全国の様子なんですけれども、益田市の棒グラフのほうが出ている部分がたくさん見られると思います。特に、上位層ではなく下位層のほうで全国や島根県よりも正答率の低い子どもが多いという状況が見えます。

ほかのグラフでも似たようなところが感じられるかなと思うんですけ

ども、要は十分に理解とか定着ができてない子どもたちが、残念ながらそのままの状態でも今もいっているということが如実に表れているということになっております。このことは、これまで学校のほうに対しても言ってきたところなんです、よりこの辺も強化していかなくちゃいけないということ強く感じています。

5ページのほうをご覧くださいと、児童生徒質問紙、前回もお出ししてはいるんですが、その中を見ると、授業改善がかなり進んできてはいるなということは見られるんですが、続いての7ページのほうが大きな課題が見られるところです。家庭学習についてのグラフですけども、中学校は幾分か改善が見られているんですけども、残念ながら下のほうのグラフを見ますと、家庭での宿題をしているとか、予習をしているとか、復習をしているというところにまだ課題が見られます。特に、予習や復習といったところが全国値や県の平均値をかなり下回っているという状況があります。先ほどの十分な理解や定着ができていない子どもたちがそのまま残っているというところとこの家庭学習のところを、しっかりと併せて改善をしていく必要があるというふうに強く認識しております。

最後の10ページに書いておりますが、今後の方策として取り組んでいく部分と、教育改革推進室のほうでもいろいろ分析結果をみんなで話し合ったところではあるんですけども、特に今年度中に行うことの4番目の家庭学習習慣の定着ということ、ここは簡単にしか書いていませんが、実は先週から始まっている各学校への指導主事の計画訪問が始まったところですので、この計画訪問を通して、各学校に家庭学習の定着あるいは推進、それから先ほど言いました理解が十分にできていない子どもたちのフォロー、こういったところをしっかりと学校のほうでも取り組んでいただくようお願いしていきたいというふうに考えています。

なお、来月ですが、小学校の来年度入学生の就学時健診があります。今年度、初めての試みですけども、学校教育課のほうでも時間をいただいて、わずか5～6分程度ではあるんですけども、家庭学習について保護者にもしっかりと訴えて、ご協力をお願いしたいというふうな取り組みを考えているところです。大まかですが、結果概要についての報告とさせていただきます。

柳井教育長

それでは、学力・状況調査の結果について説明がございましたが、この点について委員さん方からご質問等あれば、お願いしたいと思います。

渡辺委員

先般、教職経験のある人といろんな話をしたんですが、益田市は学力向上のために先生はものすごく頑張っておられて、全国で有名な、頑張っておられる北陸の福井県のほうからも講師を雇って研修会をしたりという話をしたんです。そうしたら、全国的に北陸や東北にはすごく学力

の高い県があるんですが、そういう所について、確かに全国的に学力が高いんだけれども、自死する子どもたちが平均よりも多いんだという話を聞きました。えっ、というふうに思ったんです。自死する子どもってというのは、大体いじめに遭ったりして亡くなる子どもさんというふうなイメージがすごく強かったんですけれども、学力の高い県というのは自死する子どもたちも多いということでした。

それで、うちの孫も遊びに来た時に、私は学校の先生になりたいっていうようなことを話してくれたんです。そんなことを考えたときに、学校っていうのは、学校が楽しい、あるいは勉強がおもしろい、先生が大好きっていう、そういう教育環境っていうのを作っていかないといけないというふうにその時感じたんです。そういうところを、ただ学力の向上のみではなくて、学校全体を良くしていくってところまで踏み込んでいかないと、益田市の特徴のある教育にはならないんじゃないかなというのを少し感じましたので、そういうふうになってほしいなと願っています。

柳井教育長
舟橋委員

今のことに関連して何かありますか。

学力調査の結果で、8ページにある、自分の良いところがあると思うとか、夢や目標をちゃんと持っているというようなところから、これは子どもたちにとってすごくいいところがあるんだなというふうなことを感じながら見させてもらいました。

先ほど、リーフレットも作成して、今後に努めていきたいというふうなことがありましたけれども、夏期休業中にどの程度家庭学習というか、自主的な学習というか、そういう辺りができるように、各校どのような工夫と苦勞をされていらっしゃるのか、あるいは学習だけではなくて、家の手伝いだとか、自主的に生活できるお手伝いだとか、どの程度子どもたちが生きるためにやっているのかなっていうのがもう少し知りたいなと思います。

家庭学習のやり方は、自分で学んでいかななくてはいけないという形がとれる子どもたちを育てていかないといけないというふうなことを思います。それに当たっては、よくやるのが学習の進め方の手引、まずは文章を読むという力、何回も読んでみるということ、書く力もそうですけれども、例えば国語で言えば、まず読んでいって、分からない所は印を付けるとか、その順序がある程度自学する順序があると思うんですけども、そういうふうな具体的なやり方がこのリーフレットの中に入っていけば効果があるかと思います。ただ頑張りましょう、やりましょうというものではなくて、そういう具体的なものが、各校からアイデアを出してもらって一つになっていけば、より効果が上がるかなと思います。

もう一つは、その効果を上げるために各学校が、この結果についてだ

けではなくて、学校の子どもたちの状況把握、実態把握をしっかりとされた上で、何が課題であり、うちの学校は何をしていきたいんだというものがしっかりと教育委員会としてつかめているのだろうかということ、この結果だけでは見えないところをもう少し集約して、本当に教育委員会としての目指す方向性というものをつかんでいく必要があるんじゃないかなというふうなことも思っていますが、その点いかがでしょうか。

城市参事

自死と学力の関係なんですけども、これは実は把握しておりません。急ぎまた調べてみようと思います。ただ、学校生活が楽しいというか、安心安全な集団生活、学校生活、これは学力にも当然結び付くもので、大事なことだと考えています。今年度、学力育成プランの中でも集団づくりということを入れておりますけども、子どもたちが毎日の学校生活を楽しめる、その中で安心して学べるという環境づくりはとても大事なことだと考えています。このことは学校のほうにもしっかりとお伝えしながら、集団づくりに力を入れていただきたいというところです。この夏にも、特に小学校が中心でしたけども、集団づくりということで、講師の先生をお呼びして、より実践的な演習も交えながら研修を行っているところです。

それから、舟橋委員さんがおっしゃった、夏期休業中の様子なんですけども、これも申し訳ありませんが、把握できていません。ただ、先週から各学校への計画訪問を始めています。まだ先週の段階で1校しか行ってないですけども、残り26校これから回っていきますので、その中で夏期休業中の様子についてもしっかりと伺いたいと思っています。ただ、これも小学校中心ですが、学習の手引、家庭学習の手引というものは、ほぼどの学校でも作られて、子どもたちに配布されて活用されているように伺っております。実際にその辺がどの程度効果があるのかということも踏まえて、実態をお聞きしていきたいと考えています。

ただ、今回の学校訪問の一番の我々の目的は、全国学力調査を受けて、各学校で取り組んできたこれまでの取組が検証されているか、あるいは改善策としてどのようにこれから取り組んでいくのか、そういったことを聞くのを一番の目標にしておりますので、全部終わるのが11月になってしまうんですけども、終わりましたところで内容をご報告させていただいたらというふうに思っています。

水上委員

これを事前に頂いて、一番残念に思ったのが、7ページの家庭学習の所だったんです。家庭学習1日1時間未満の所で、益田市の平成29年の所にこれだけの幅があるってということで、全くしないというのはゼロですよ。学校から帰って何もしない、30分未満じゃなくて何もしないというのは、やっぱりすごく残念ですし、親御さんも何一つ声をかけ

ないのかなとかも思いますし、自分でそのことに意識が全くないのか、学校の先生も気が付いているけど指導がそこまで行かないのかっていうのが、すごく重大なことじゃないかなと思います。

先ほど言われたように、学力のなかなか到達してない子どもをサポートしていくには、こういう教科書も開かない、全くしないっていうのを絶対なくさなきゃいけないと思うんです。それっていうのは、学校の先生方や教育委員会がいくら指導に当たっても、家庭の中の環境というのが大事だと思うので、そのことをいかに周知するかっていうのは、教育委員会だけじゃなくて、もしかしたら親御さんがどうしても夜に留守をしなきゃいけない環境にあるとか、よく分かりませんが、そういったこともリサーチする必要があると思います。そういうあらゆる情報を得ながら、こうなった以上は個々に当たっていくぐらいの何かをやっていかないと、この環境はなかなか口頭で言ったりプリントを配ったりっていうだけでは治まらないぐらいのところまで来ているんじゃないかなと思います。

やっぱりゼロっていうのは、しかも中学3年生というのは、もしその次に進学を考えているのであれば、勉強しなきゃいけないと思いますし、何もしなくても益田にいればどこかの高校が拾ってくれるっていう気持ちも心の中にあるのかどうかは分かりませんが、高校に行って、次は職業に就くとか、次の進学に当たって大学に行くとかって言うても、義務教育の土壌ができてない限りは全国レベルでは戦っていけないと思います。益田にいるからもう勉強はそんなにしなくてもいいというのではなくて、益田にいても気持ちは全国に向かったり、仕事でも世界に向かったりっていうような気持ちはないと、益田全体が向上しないと思うんです。そのためには、この何と言ってもゼロ時間、全くしないというのをどうにかなくす方法っていうのをみんなで取り組んでいかなきゃいけないんじゃないかなっていうのをすごく感じました。

私もこれを事前にもらったら、予習じゃないですけど、必ず目を通しますし、学校を卒業しても、大人になっても、生涯学習っていうのは人として生きていく上でずっと大事なことです。その土壌を養うためにも、社会教育がうんぬんというまでに、その個人が学ぼうという気持ち、予習していこうとか振り返ってみようとかっていう気持ちがないと、人として成長しないと思います。そのためにも、益田のみんなの向上を目指してやっていかなきゃいけないんじゃないかっていうのをすごく感じました。

柳井教育長

確かに、小学時代はやっている子どもたちも、中学3年になってこれだけ増えているという状況については課題だと思いますので、自ら学ぶ、そういったものは一生続いていくものですから、これについては教育委

員会としてももう少し検討して、現場の状況、このできない状況が何によっているのか、もう少し明らかにしていく必要があるんじゃないかと思います。

舟橋委員　とても賛成です。それで、たまたまなんですけど、本当にわずかな子どもたちの状況ですけども、学校は別々だったんですが、「夏休みの宿題そんなじゃないよ」と言われるんです。「宿題はなくても、自分でしようとするものはないの」と言ったら、「ないよ」ということを聞いたので、先ほど質問したわけですが、その辺りが、やっぱり自主的に学ぼうというのは、結局、分かってなかったらしたくないと言うし、時間もかかるということもあるんですけども、だけどやっぱり子どもたちがここまではやりたいという目標というか、そんなことがどこまで設定されているのかなとか、意欲が培われているのかなということを思います。水上委員さんがおっしゃったとおり、生涯学習としても大事な部分だし、必要だと思いますので、是非そこら辺りよろしくご指導のほうお願いいたします。

中野委員　私の意見としましては、全体としては昨年度よりはかなり改善されているというように僕は受けとめました。教育委員会の皆さん、また学校現場の教職員の皆さんが一丸となって取り組んでいらっしゃるという成果が出ているんだろうなというふうに思います。

少し気になる点としましては、小学6年生の読み書きの部分のポイントが下がっているということで、やはりこれはメディアの影響等もあって、恥ずかしながら私も読み書きが、コンピューター等をかなり使っている関係で忘れてしまったりということが出てきたりとか、十分に覚え切れないということも出てきているわけなんですけど、この辺りをもうちょっと力を入れていただきながら取り組む必要があるのかなというふうに、4ページの教科に関する調査平均正答率一覧のほうから確認をさせていただきました。また、例えば朝の時間を有効に使いながら漢字ドリル等の学習も少し増やしていただきながら、このあたりのほうでも高める必要があるのかなというふうに思います。

それから、何点かあるところとして、8ページの読書に親しむ傾向が見られる反面、メディア接触の在り方や情報モラル、情報リテラシーの形成が必要というような部分なんですけど、読書習慣等の時間をとっていただきながら取り組む必要があるのではないかなというふうに思っていますので、この辺も引き続き学校現場のほうでも力を入れていただきながら、読書を通じて学習意欲が向上するとか、あるいは先ほどの読み書きにつながるということにもなるんだろうと思いますので、是非その辺りお願いできたらと思います。

最後に、非常に良いことかなと思っているのが、9ページの地域行事

参加や家庭との関わりについてなんですけれども、全体を通して全国平均よりもかなり向上しているというようなデータが出ておりますので、やっぱり地域一丸となって子どもたちを支えているということがこの益田市の強みだというふうに思っていますので、この辺りもいろんな地域の話の聞いたりすると、子どもたちの参加率も少し減少ぎみであったりとか、親御さんの参加も少なくなっているということもあるんですけども、このあたりは根強く参加の呼びかけをしながら、一体となって取り組む必要があるのかなというふうに思います。

あともう一つ、先ほどの水上委員さんのお話もあるんですが、やっぱり家庭内で家族と話をすることが一番大事なんだろうなというふうに思っています。それは、保護者のほうの考え方もあるんだとは思いますが、子どもたちから保護者のほうに話しかける、あるいは僕たち保護者も話しかけるということをやっていく必要があると思います。この辺は逆にどうしたらいいかっていうことは私のほうからなかなか、家庭それぞれ環境が違うんですけども、それぞれの場所で伝えていく、取り組んでいくということとどこかで教育委員会としても言っていくということが大事だと思いますので、その辺りを引き続きお願いをしたいと思えます。

舟橋委員

この調査結果なんですけれども、児童生徒質問紙結果ということで児童生徒に対してはあるんですけども、それとは別に各校の学校質問紙というのがあるかと思いますが、これには掲載されておられませんけども、確か2つほどあって、前年度までに様々な考えや思考を深めたりするような発問や指導をしましたかというのが一つ、それから先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますかっていう質問紙が入っていたと思うんですけども、この結果が良いほどテストの点も良い結果が出ているという状況もあったかと思えます。そこら辺のところも踏まえて、学校へまたしっかりお伝えしていったらいいなと思えます。

こういう中にもそういうふうな全国的なもの、できれば益田市の状況あるいは県全体の状況が分かれば、これも教職員への、もうちょっとこうしようとかいうふうな考え方ができてくるんじゃないかなと思えます。これが、子どもたちにこびて好きになってもらうとかっていうんじゃないくて、授業の中でしっかりと認めていくことも必要だと思います。授業を大事にしながら、僕はみんなに認められているんだという自己肯定感が養われるほど人間はとても元気を出しているいろんなことに意欲的に取り組むことができる、つまりは学力向上の基盤となるということもつながると思います。できればこれから学校質問紙の結果も出していただければと思うんですが、資料がたくさんあって大変なんですけど、そこら辺はもう無理ですかね。

城市参事 学校質問紙は学校に対して質問されているものなのですが、これは数十項目あります。大量にあるんですが、実はそれも考えてはみたんですけども、小学校が15校、中学校12校あるので、何らかの分析に使えるかなとは思ったりもしたんですが、各校で校長先生が書かれていたりということがあって、学校の状況がしっかりと反映されているかどうかというのは怪しいなというように思うところもありますので、あえて出していませんでしたが、また検討してみようと思います。

舟橋委員 それでも、指導に回られるとのことですので、そういう辺りは伝えていただければ、それだけでも大きな違いが出てくるんじゃないかなと思いますので、よろしくをお願いします。

大畑推進監 渡辺委員の自死のことですけれども、一つには、全国で自死が下がったのに20代以下が増えたということがあります。もう一点は、秋田県は元々自死率が高いんです。そういう東北や北陸が高いという傾向があって、全体は減っているのに子どもたちの自死は増えているということと、学力が高い県の自死率が高いというのがあったりして、その辺がステレオタイプになっている可能性もあるかなと思うんです。私も秋田県が自死日本一だということを知った時に、学力が一番高いのになと思いましたので、その辺のところ、実態とリンクしているかどうかというのは難しいかなという感じがしました。

渡辺委員 誤っているところもあるかも分かりませんが、そうは言っても、子どもたちが平均よりも学力が高いような県でさえもそういうことがあるんだってということで、ただ知識だけではなくて人間的な、充実感というか、そうしたことも充実させていかなくちゃいけないっていうようなところを言われたのかなっていうふうには思います。

大畑推進監 意図はそうだと思いますね。データ上はなかなかそのところ、本当に自死の子どもたちのデータが出ているかどうかというのもありますので、難しいとは思いますが、全体数はそういう傾向があると思います。

中学生の宿題の件ですけど、僕は小学校と中学校の両方を経験して、小学校の教員をやっている時に、宿題を早く出すように言ったら大体出して、出さない子がわずかでしたが、中学校は本当に先生方の宿題に対する考え方とかもかなり違うなというのはあります。なので、小中学校ですり合わせをして、どんなものをどの程度出すのかというのを両者でやらないと、中学に入った途端の宿題の出され方の傾向が全く変わってくるということもあったりするんだろうと思います。教科ごとにも違いますので、それぞれどんな意図でどうやっているかという確認は各学校やっているとと思いますが、小中学校でするとか、そういうことをやっておかないと、小6と中1の宿題に対する考え方のギャップが大きいのかなというのが現場にいる時の実感でした。

本当にしてこないことが平気で、厳しく言ったらやるとよく言われますが、しません。罰だけでは子どもが動かない状態になっている傾向があるんじゃないかなと思いますので、どうやったらやっていることが価値あることだと思えるように仕向けていくかというのは、切れ目なく考えていかないといけないと思いましたね。

水上委員 今、中学校なんかは教科書は置いて帰るんですか。

大畑推進監 置き勉は多いですよ。

水上委員 そうすると教科書が学校にあるということは予習はできませんよね。具体的に、明日英語があるんだったら、英語の教科書持って帰りなさいよとか、手法としてはあまりにも幼稚ですけど、もうそれぐらいのレベルしかない現場なのかなと思ったりもしますよね。

渡辺委員 そういう話を私も随分前にPTAの役員をしていた時に話を聞いたんですよ。子どもたちは重いからとかっていう理由で学校に教科書を置きっ放しで、家へ帰っても勉強なんてするわけないと親が諦めていたんです。そういうふうな傾向っていうのは、子どもたちが、自分はこのくらいのことをしているとかっていうのが、それが一つの自慢なのかなっていうふうな気もしましたけれども、今でもそういうことはまだ続いているんですね。

水上委員 ちなみに、例えば学力の高い県でもそうやって置き勉というか、教科書を置いて帰っているんですか。

大畑推進監 置き勉の調査は聞いたことないですね。

水上委員 本当にレベルというか、意識が低いんですけど、そういうのってどうなのかなと思ひまして、学校の勉強をまず主体にしているのか、それとも別の何か、学校以外の教科書で家庭学習して学力を上げているのか、どうなんでしょうか。

渡辺委員 研修会とか最近のいろんな教育的な記事なんかを見ましたら、結局、学力の高い県っていうのは、宿題とか予習、復習に対して苦になってない、それが習慣化しているということでした。

舟橋委員 こういう考え方もあるんですよ。あるアスリートの方で、なぜ家に帰って勉強しなきゃいけないのか、もう自分はこのことをやっていきたいから、そっちでいいんじゃないかという子どもに対しての指導が、それも授業のための一環だから、だからこれはしなきゃならないんだよという説得の仕方をされて、そのアスリートの人は本気でその分を学校の中で全部やってしまっただけで帰るという形で、その練習のほうへ力を注ぐというふうなやり方をするとということでした。

昔、私の友達ですごく勉強できた子が言ったのは、授業の中で本気で全部覚えて、授業の中で完結していくんだと、だから遊べるんだよとかっていうようなことを言っている子もいました。授業を本気で、これだ

けは学び取って帰るぞという意識で、時間の中でそれぞれ一生懸命頑張っていて、もちろん個人差があって当然だし、その子なりの一つでも学ぼう、一つでもやっついこうというものが増えていけば、それも一つの大きな力になるし、それが身に付けば、家庭に帰ってもあそこは得意になったからもうちょっとやってみようかなって、そういうふうな気持ちになるかなと思うんです。子どもの意識を変えていくことも一つ大事かなと思いました。

親御さんに頼っても、結局、中学校や高校になったら親御さん相手にはできません。だから、そこまでの間にどれだけ、学ぶのが楽しいからやろうということが、どの教科でもちょっとでもいいから、そういうところの本物の楽しさというか、喜びというか、理解して自分のものにした喜びを味わっていくことができるかということも重視しながら進めていかないといけないかなと思います。

柳井教育長

委員さん方からいろんなご意見を頂きました。そういったことを基に、これから教育委員会としてもしっかり精査しながらやっていきたいと思っています。私が城市参事に話をしたのは、これだけを見ますと、昨年度との比較ですから、昨年度の子どもと今年度の子どもは全然違いますので、あまり質問紙から、中学校のほうはみんな上向いてはいるんですが、それは今年度の生徒の傾向という状況しか見えないんです。経年比較していかないと、昨年度の子どもがどのように変わっているのか、そういった中で現状よりも伸ばしていくというのが我々の使命じゃないかというふうに思います。

そうして見ますと、益田市の平均正答率なんかを見ても、国語Aというのは知識とか理解とかで、全国平均より上回っているわけですが、ただ、この中でも先ほど読み書きについて言われましたが、読む力というのは中身をしっかりと読み取って、しっかりと考えるということであって、これがB問題になるわけですが、そのB問題が益田市の子どもたちは極端に悪いです。その中でも、数学的な見方とか考え方とか、数学においてもそういう力が弱いんです。その背景には、授業の在り方をもう一度しっかり見直すとか、学校がチーム一丸となって徹底的にやっているのかどうかというのを、現在指導主事が回っておりますが、また1学期に引き続いて私と部長が回って、2学期はしっかり授業を見て、そして学校の取組状況はどうなっているのかというのを確認しようと思っています。

目先の数字がぱっと上がるというのはあまり意味がないと思っています。やはり先ほど言った、学校の授業が楽しい、できる、分かる、そういう喜び、そしてこれから言われている自ら考える主体的な学び、そして友達とのコミュニケーション、そういう対話的な学びとか深い学びというものです。こういう辺りがまさしく数学的な見方、考え方、筋道

を立てた考え方であるし、国語の中で読み取る力、問題なんかの文を見ると非常に長文なので、しっかり普段から慣れて読み取る力がないと、途中で諦めてしまうような問題がかなりあるわけですね。そういうことに十分子どもたちが育ってない部分もあって、全くできない部分があったりして、よりよく検討していくといろいろな課題が見られるようです。

そういったことをこれから学校と一緒に、益田市の教育をどう育てていく、子どもたちをどう育てていくんだということをしっかり納得してもらった上で、子どもたちに考える力、読書量が増えているということはとても大切だと思います。私もよく高校時代に、試験前に、先生が前の日に読書をする点数が上がるよとあって言われて、本当にそういうふうにしてみたら、実際、頭の中がすっきりして良くなったような気がしております。読書には、それなりの深い読み取りもしなきゃいけない、そして長い文に耐えられる、そういう読み方もできますし、面白さだけで突き進む読み方もあるでしょうし、考えながら読む読み方もありますし、そういった中で頑張っていかなきゃいけないなというふうに思っております。市長も申しておりますように、目先の1点、2点を即上げるような、ドリルをやるとか過去問をやるとか、そういったことの対応ではだめかなと思っております。

渡辺委員

さっきの話なんですけど、随分前に書いてあったことなんですけど、子どもたちが、ただ自分の成績だけがどんどん伸びればいいっていうものじゃないよと、できる子はできない子を教えるっていう、そういうようなところが大事なんだっていうふうなことが書いてありました。学級内の子どもたちが一緒に勉強するんだけど、競争としての面はあるけれども、本当は全体がぐっと伸びるように、みんなと一緒に歩いていくっていうような雰囲気というのをつくっていくといけないうふうに感じたんです。

柳井教育長

そうだと思います。そういうクラスになれば、必ずお互いが伸びていこうという、そういう集団ができ上がると思いますし、以前やっていた学びの共同体とって、佐藤学先生が中心となっている、あれを益田市で取り入れてやって、良かったなという時代もあります。ですから、そういった授業が今から、新しい教育課程はまさに対話的な学びっていうのを、そういう人間関係がうまくいかないと話がだんだんできない、そういうことになってしまいますので、今年度集団づくりに力を入れておりますけども、そういった辺りを含めながら、先ほどおっしゃられたような皆がお互いに教え合ったり高め合ったりと、そういう授業を目指していかなきゃいけないと思っております。

舟橋委員

先日、運動会に行かせていただきましたけれども、特にみんなで応援合戦とかをしている姿とかっていうのは、本当に生き生きしているんで

すね。それで、校長先生も、この子がこんな力を出しているんだっていう、もう驚かされているような状況もあったんですが、それぐらいに各チームが力を合わせてやっていて、これは、あるやり方を変えれば学習にも生かせるなっていうふうに思うんです。みんなで団結してやって、やったぞっていう喜びというのは大きなものがあるので、そこら辺のところもしっかり認めながら、子どもたちの学習に取り組んでいく姿を見せてほしいなと思います。団結の力というか、そういうものを大事にしていく必要があるなというふうなことを感じました。5校回らせてもらいましたけども、本当にみんな素晴らしい子どもたちで、授業では考えられないくらい大きな声で、パフォーマンスもすごかったです。走ることも一生懸命やっていて、ああいう姿が学習に生かされれば、もう言うことはないなっていうふうなことを思いました。

それからもう一点、教育長さんと部長さんが学校を回られると言われましたが、1年かけてほぼ終わるような状況になるかと思うので、できれば私たち教育委員も少し帯同させていただいて、回られるような仕組みを作っていただければと思います。そうやっていろんな人が学校に入ることによって、意欲というのは子どもも教員も違ってくるんです。いろんな人にいろんな意見を聞かせてもらうということでも違ってくるような気がします。教育委員の皆さん方のそれぞれの思いもあるかと思えますので、せめて1年に何回か私たちも出させてもらっていますけれども、本当にちょっとした簡単な訪問も計画してもらうようにということで、前にもお願いはしていましたけれども、たまに研究授業的なところでは行かせてもらっているんですが、そうではなくて、自然な形での視察というか、そんなこともお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

柳井教育長 その辺りについては検討してまいりたいと思います。ほかにはよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○報第40号 第527回益田市議会（定例会）一般質問について

柳井教育長 それでは、報第40号、第527回益田市議会（定例会）一般質問について説明をお願いいたします。

藤井部長 このたびの9月議会におきまして、一般質問、12名の議員さんから質問がありました。そのうち教育委員会関係が7名ということで、6月議会が確か8人程度おられたかと思えますので、かなりの方が教育委員会にいろいろ関心を持っていただいているということなのかなと思っております。

概要につきましてはお配りをしたとおりでございます。まず教育総

務課につきましては、中山間地域での教育環境整備についてというご質問で、ここで教育システムであるとか、学校再編の考え方とか、学校施設整備の考え方、こういったことについてのご質問がございました。また、教育総務課にはもう一つ、給食の無償化、これをやっている自治体を、近隣にもございますが、益田市でもそうした無償化の取組について考えられないのかといったようなご質問がございました。回答につきましては、それぞれお配りの資料をご覧くださいと思います。

次に、学校教育課につきましては、学習指導要領の中で、生きる力、歴史のとらえ方というところがございまして、特に近現代史についての戦後の辺り、あまり昔は学習時間をとって勉強する授業してなかったが、どうなのかということも含めまして、その辺のことについてのご質問がございました。また、最近話題になっております教職員の長時間労働対策、それから先ほどもありましたが、子どもたちのいじめ防止と夏休み明けの自死防止、こうした取組について、また子どもたちの健康管理について、それから教育におけるICT活用についてというようなご質問がございました。

社会教育課におきましては、この4月、ひとづくり推進監を設置してまいりましたが、半年過ぎたということで、改めて設置についての思いということで質問がありました。また、昨年来ずっと進めておりますように、教育の魅力化、これにより人を呼び込む取組というのでも考えられるのではないかとご質問がありました。それから、今後の公民館の在り方についてということで、益田市は地域自治組織というのを進めている中で、地区振興センターについては平成31年3月で廃止という方針を今出して説明等回っておりますが、その後はその館は公民館という形で、市の嘱託職員等を配置しながら、それぞれの地域における特色を生かしながら、ということを考えておりますが、その辺についての考え方と公民館の在り方についてのご質問がございました。

最後に文化財課ですが、4月に行いました県要望、県の研究機関拠点整備について、これは来年度以降も継続していくのか、あるいはそうした要望を続けるに当たっての益田市の組織の強化も必要なのではないかというご質問がありました。それと、東京オリンピックまでに全国で100ほど認定するという日本遺産、これについて益田市の考え方はどんなふうになっているのかというようなご質問がございまして、報告書、概要ではありますが、11ページにわたっておりますが、またそれぞれ内容のほうご確認いただければと思います。

柳井教育長 それでは、市議会の報告をしていただきましたが、これについてご質問等ありますでしょうか。

中野委員 少し質問させていただきたいんですが、議員さんの中で、こういった

形の教育を提案しますとかっていうことがこの中であるのでしょうか。要は、物事に対してどうなっていますかというような、これを見ますと質問が多い中で、こういった取組をしたらいかがなものなのでしょうかというような提案事があるかどうかというのをお聞かせいただければと思います。

藤井部長 私教育委員会の経験が浅い中ではあるんですが、今2回ほど一般質問のほうを経験しております。どちらかというと今の取組についての確認的な内容が多いのかなと思っております。ただ、ちょっと視点が違いますが、6月、9月と同じ質問をされた議員さん、これは歴史文化研究センターのことですが、これについて市の教育委員会の体制について、6月を踏まえ、もっとやっていくべきではないのか、こういう考え方を示された議員さんもおられました。

中野委員 いろんな他県の視察等も行われてらっしゃるということも存じておりますので、そういった事例なども益田市のほうに持ち帰っていただいて、提案できるものがあれば、していただければ、より益田市の教育がより充実していくのかなというふうに感じましたので、一言述べさせていただきます。

藤井部長 補足いたしますが、大きなところでなく比較的小さいところではいろいろご提案はあります。例えば今回なんかは、修学旅行時に防災教育の観点から、東京に臨海広域防災公園、こういった所があるので行って見ないかとか、子どもたちの健康のことでは、ピロリ菌の検査というのを他市町村ではやっているの、やってみないかとか、前回では、就学援助の補助金を今までは1年生になってから交付していたものを就学前に交付するべきではないのか、こういった具体の項目についてはいただいているところです。

舟橋委員 18番のこれからのICT活用について問うということで、タブレット活用実証研究事業を進めておられますが、匹見に行かせてもらったりした時に、本当に素晴らしい実践をしておられるというようなこと思いました。早く子どもたちに、もっとこういうふうな積極的な取組ができるように環境を整える必要があるなと思ったところで見させてもらいました。できるだけタブレットやパソコンの整備を推進していく、どの程度の計画を持っているか、もう少し詳しく知りたいなと思いますが、どうでしょうか。

武内課長 来年度が小学校の情報機器の更新になっております。今、各学校から要望等を聞いたり、どういうふうなことができるかという検討をしたりしている段階です。その中でタブレットがどのような位置づけに最終的になるのかというのは、学校のご意見も聞きながら整備を進めていくということになるかと思っております。

全体的な予算もまだ示されておられませんので、それがどの程度の、シーリング枠がまたマイナスで出てくるのかどうなのかも含めて、シーリングの対象とはなっておりませんが、聞いている中では相当厳しい予算ということになっておりますので、学校教育のところにおいても協力できるところはしていくという中で総合的に判断をしていきたいというところではあります。全部タブレット整備ができるのか、タブレットが望ましいのか、ほかの情報機器を望まれるのか、そこら辺も確認しながら進めていくというふうに思っております。

舟橋委員

各学校にタブレットを全部渡して授業をしているというわけではないということは承知しております。ですが、逆に言うと、タブレットを使ってどれだけの効果が上がっているかというのを各校が見に行っているのかどうかと思ひまして、例えば、匹見でやっておられるような状況が益田でどのくらい、こんなこともできるんだねってということが、少人数だからこそいろいろできる部分もあるんだけれども、それを大人数にどう生かせるかというところを考えていくためには、やはり現場を見ないと判断しかねるんじゃないかと思うんですが、そういうふうなところももう少し教育委員会として進めていくのがいいんじゃないかなというふうに思います。

全国で、全校にタブレットを全部渡して、家に持って帰らせてもオーケーという状況にしている所があるんです。教育委員会がすごく進めていってということで書いてありましたが、すごいなというふうに思いました。益田は、確かに施設が老朽化して、大変なお金が必要であるということもよく分かっているわけですがけれども、だからこそ、少人数でできる、力を付ける意味での効果というものを学校教育課がどの程度把握して、これをもっと訴えていくというのが必要じゃないかなと思います。知らないのにやろうというのはまず無理ですし、学習の仕方はここまでできるんだというのを多くの先生方に見ていただくようなことも、考えておられるとは思いますが、そこら辺いかがでしょうか。

城市参事

実際に実証研究で取り組んでいる学校の公開授業については、かなりの回数、各学校には呼びかけています。呼びかけていますが、実際に来られるのは1校か2校ぐらいというところで、参加校が大変少ないです。先般も、益田小学校ではプログラミング学習とあって、タブレットを使って行いまして、これも3校か4校しか結局来られなかったのが現状です。なかなか授業中には学校を空けて来ることが難しいんだろうなとも考えられますし、何らかの方法をまた考えながら広げていく必要があるんだろうなと思っております。

舟橋委員

人間というのは、これを使うとこんなことができるっていうのがもっと分かっているかなきゃいけないなっていうふうに思うんです。情報収集

の仕方から全てに関わって、タブレットって大きな力を持っているなどというのは私すごく感じるので、そこを何とか、もっと方法を変えて、研究授業においでよと言うだけじゃなくて、期待が薄いんだと思います。どうせ教育委員会は買ってくれないよねっていう教職員の意識的なところも多分に働いているんじゃないかなと思います。だとすると、現状それだけで精一杯っていう感覚が強いかもしれないというのはとても思います。

もうちょっと工夫して、と言っても私もなかなかアイデアはないんですが、何とかしてもっと理解を深めるために、例えば40台そろえれば、貸出しがちょっとずつできますよね。そういうふうな方法だとか、またいろいろ考えていただいて、実際に体験をさせていって、どこまで子どもたちが育つかというのを見ていけるような、予算要求をしていただきたいと思います。要求がなくて動きはしないので、何かそういう方法とっていただければいいなと思いますが、いかがでしょうか。

武内課長 情報機器の整備については、県内においては、益田市は結構取り組んでいるところです。その中で、情報機器を活用した授業等については、学習指導要領も変わって、そういう中で機材もどんどん変わってくるという状況です。その中で、現場のご意見、使われるのはそれぞれの先生ですから、そういった方々が整備をしても使わなければ役に立ちませんので、そういったこともお聞きをしながら、できるだけ予算を要求していきたいというふうに思っているところです。

大畑推進監 実際、小中でICTのために9,000万円一般財源を使っているんですから、破格だと思いますよ。各学校はお金を配ってないと言いますが、9,000万円かけているんですから、それだけかけた成果を出しなさいと、学校に対して逆に聞きたいくらいです。

舟橋委員 今の予算の中には、拡大のプロジェクター的なものとか、それも全て含めての予算ですよ。大変なお金だと思います。

藤井部長 大畑推進監が言われたとおり、教育委員会としては一般財源9,000万円がICTにかかっている、これは県内でも多分破格だと思います。それだけ益田市は一生懸命ICTというものを、中山間地域を抱えているというようなこともありますし、やってきたんだなということだと思います。

その中で、タブレットパソコンというもの、まだまだ実証研究をやっている最中です。これはメーカーさんとか大学さんとかの協力を得ながらやっているんですが、できればもう少しその成果をしっかりと検証するために続けていきたいというふうなことも考えております。また違うところで、メーカーさんのほうから協力いただいて、50台ほどタブレットを借りられるような話もしておりますので、予算をかけない中で、

研究の段階であればいろんな方法で提供してくれるところもございますので、予算をかけずに続けられないのか、広げていくことができないのかということもやっているところです。なかなか予算的に拡大していくのが難しい中で、そういった知恵も別のところを出してやってみたいなというふうな努力をしているところです。

舟橋委員 各校でどのような取組をしているか、良い結果が出ていたものを集めて、それまた返していくとか、そこに意識をもっと高めていくという必要性があると思っています。これが先々の教育につながってくる可能性が高いので、大事なことだというふうに思います。

藤井部長 研究結果は、うちの指導主事が東京とか大阪のほうでも発表しております、そうした発表というのが全市的にもっと広がって理解も深まればいいのかなというふうには考えています。どちらかと言うと、ひょっとすると市外からの評価のほうが高いのかもしれないのかなというふうには思います。

舟橋委員 ということは、結局、各校にそれが伝わってないということになりますよね。だから、もっと伝える方法を考えなきゃいけない、やり方が分からない、どうしたらこうなるんだろうというのがもっと教職員に理解できる形で、推進しているところはすごくトップに行って、してないところこんな状況という、この格差というか、そういうものはやっぱり埋め合わせをしていかなきゃいけないと思います。それから、活用するためにあるわけじゃないので、これは必要不可欠として使える状況にしていけないといけないので、そこまでに現場が至ってないということだと思うんです。だから、そこを教育委員会としてはもっと推進していく必要があるかなと、意識を持って推進してもらいたいというふうに思います。これから先につながるようなもの、アイデアを出してよというふうな方向性で対応していただければ、大変うれしいと思います。

柳井教育長 それでは、この件についてはよろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

○報第41号 平成29年度9月補正予算について

柳井教育長 それでは続いて、報第41号、平成29年度9月補正予算についてお願いします。

山本課長 お手元のほうに、平成29年度9月補正事業別概要書ということで、12ページにわたって4課それぞれ補正を上げて議会議決をいただいております。簡単に概要をそれぞれの課から報告をさせていただきます。

最初に教育総務課ですが、1、2ページでございますけれども、この2つの事業につきましては、いずれも7月の大雨によりまして発生した施設災害に伴う補正予算ということになっています。まず、1ページの

ところが小学校の施設の災害復旧費ということで、補正額が343万5,000円ということでございます。これにつきましては、鎌手小学校の関係でございますけれども、グラウンドの復旧工事、これが測量設計で117万7,000円、それから工事請負費が225万8,000円ということの内訳になっております。次のページをお開きください。今度は中学校の施設災害ということでございます。これは鎌手中学校の関係でございますけれども、補正額が104万1,000円ということでございます。内容につきましては、鎌手中学校ののり面の保全用の消耗品を見るということで4万1,000円と、あと屋内運動場も床上浸水ということで被害を受けておりますけれども、これに伴う修繕をするための原材料費、床材等の購入になりますけれども、これが100万円ということで、合計で104万1,000円の補正ということでございます。

武内課長 続いて学校教育課ですが、3ページ、今年度一元化しましたいじめ・不登校対策等推進事業費の中の、特にスクールソーシャルワーカーに関する部分の補正です。これは県の事業費、10分の10事業なんですけれども、これの事業委託金が10万円増えたということで、それを増額したものでございます。続いて4ページですが、学校配分経費の中の、4ページと5ページはご寄附を頂いたものに対する増額です。一つは、高津小学校のソフトボール用具購入を3万円増額したものです。これ指定寄附といいますか、ここに寄附をしてもらった中での補正となっております。続いて5ページですが、これは図書費の充実ということで、同じところから頂いた寄附に対する増額でして、中学校が特に蔵書率が低いということで、全額25万を中学校のほうに割り当てをしているところです。

大畑推進監 社会教育課ですが、まず、県の10分の10事業が当初予定したよりもたくさん採択されましたので、増額になったということです。次は、徳栄建設の災害防止協議会のほうから毎年ご寄附を頂いて、今年で4年目になるという30万円です。一応、10年設定いただいているということで、ブックスタート的な事業として活用させていただいています。その次は、公園通り、運動公園の敷地内に集会所を建てられましたので、市の補助事業の対象になるということで43万7,000円の補正でございます。次のページは、今年度12月より、陸上競技場の2種検定のための改修工事を行います。約9,300万円の予算要求をしているわけですが、t o t oのほうで2,000万円ほど補助が確定しましたので、減額するというようになっております。

木原課長 文化財課からは、10ページ目ですけども、歴史文化基本構想の策定補助金について、全国から採択希望の市町が相当多かったということで

それぞれ減額になりましたので、その財源について補正を行いました。それから、次の11ページでございますけども、「石見の戦国武将」展の会期に合わせまして、山陰中央新報で昨年、一昨年、45回の連載をしました中世益田ものがたりを書籍化して、会期中にできるだけ売り上げようということの、これに関する補正です。

藤井室長 匹見分室からは12ページでございます。旧割元庄屋美濃地屋敷管理運営事業費でございます。美濃地屋敷の母屋の屋根のあおり板と言われる部分が、経年劣化によりまして破損をして落下をしました。これに伴いまして、入館者の安全を考慮するというので、緊急の修繕が必要だということで修繕をしております。修繕につきましては、8月5日に作業のほうを終了しておりまして、21日に足場を撤去しまして、全ての作業が完了しております。緊急を要するというので、補正を待たずに先行しまして修繕をさせていただいたところでございます。

柳井教育長 それでは、各課より9月補正について説明していただきました。何かご質問等ありますでしょうか。

渡辺委員 3ページのいじめ・不登校等対策推進事業費で、単価が3,500円ってありますが、これは1時間単位なんですかね。大体、ソーシャルワーカーが来られるときには1日に何時間ぐらいおられるかなということをちょっとお聞きしたいです。

城市参事 ケースによって様々なので、そのケースに関わる時間勤められることになります。短いのは1時間という場合もありますし、長いのは3時間、4時間というケースもあります。

柳井教育長 ほかにはよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

第4 その他

(1) 情報提供

○企画展「石見の戦国武将」の開幕について

柳井教育長 それでは、第4のその他ということで、情報提供のほうをお願いしたいと思います。まず、企画展「石見の戦国武将」の開幕について、お願いします。

木原課長 お手元に、この企画展に係ります講演会等のチラシを7枚配付させていただいております。9月30日からいよいよ石見美術館で企画展「石見の戦国武将」が始まりますけども、特に開幕に当たって開幕セレモニーというようなことは行いませんけども、開幕直後に行われます10月1日の岸田裕之先生の記念講演会をオープニングと位置づけておりますので、たくさんの市民の皆様をお迎えして、幸先の良いスタートを切りたいと思いますので、よろしく願いいたします。展覧会のほうにも是

非委員の皆様方観覧していただきますよう、併せてお願いをさせていただきます。

柳井教育長 それでは、石見の戦国武将展につきまして、ご質問等ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○未来を担うひとづくりに係る取組について

柳井教育長 それでは続きまして、未来を担うひとづくりに係る取組について、お願いします。

青木主事 未来を担うひとづくり部会というのがございまして、そこには子育て支援課、学校教育課、社会教育課において取組をしております。その中からいくつかご報告をさせていただきたいというふうに思います。まず、お手元に資料はないんですけれども、子育て支援課の取組といたしまして、産んでくれて・育ててくれてありがとう教室というのを小中高で実施しております。今年度については実施中ということですので、参加校や人数については集計中ということになっております。

続いて、学校教育課ですけれども、学び舎ますだというのをやっております。5月から7月の間、前期で取組をしまして、合計7日間開催をしております。179名の参加があったということです。後期についても取組をしていきたいというふうに思っております。

最後に、社会教育課の取組について報告をさせていただきます。お手元にございます新・職場体験というチラシがあるかと思うんですけれども、こちらのチラシをご覧いただければというふうに思います。この新・職場体験ですけれども、本年度より本格的に実施をしております。昨年度、2校の実施をしたんですけれども、本年度、実施校数を6校に増やして実施をしております。また、事業所の方を対象とした研修会を初めて取り組みました。この研修会は、職場体験において、事業所の方と一緒に職場体験をより良いものにするための取組として行っております。

次ですけれども、これも資料がないんですけれども、成人式実行委員会を今年度は4月に立ち上げまして、去年に続いて協賛を行っております。また、新たな取組として、協賛をいただいた企業の皆様の中から、「ひと」というところに重点を置いて、益田市でなぜ働くのかといったことや、どんな思いでこの益田を支えておられるのか、働いておられるのかといったようなことについての動画を作成して、広く市民の方、もちろん新成人に届けていきたいなというふうな取組をしております。

次に、カタリ場についての資料をご覧いただければというふうに思います。こちらのほうについては、社会教育課のほうで動画を作成しておりますので、こちらをご覧いただければと思いますので、正面をご覧い

ただければというふうに思います。

《取組についての動画を視聴》

楢垣コーディネーター

益田版カタリ場について、私のほうからご報告させていただければと思います。まず、ライフキャリア教育、昨年からはまりまして、ついに2年目を迎えました。ライフキャリア教育、改めてお伝えしますと、どんな環境で生まれ育ったとしても前向きに生き抜いていこう、そのような力を益田で生まれた子どもたちは身に付けていこう、つまり、益田で生まれた子どもは世界中どこへ行ったとしても活躍できるような、そのような力を身に付けていこうというのがライフキャリア教育でございます。

そのライフキャリア教育、その力を身に付けるために外からすごい人と呼んでくるのではなく、それに加えて、もっと益田で日々前向きに生きているような魅力的な大人はたくさんおられます。日々前向きに生きておられる方と交流をしながら、そのような力を身に付けていく、そして、そのような力を身に付けながら益田のたくさんの魅力的な人と出会います。それが、いずれは子どもたちにとって、益田ってとっても魅力的な町だな、益田ってこんな魅力的な大人がいるんだな、だからこそいずれ益田に帰ってこよう、そのような種をまいておこう、そのようなきっかけを育てようというのがライフキャリア教育でございます。

その最も象徴的なプログラムが、この益田版カタリ場でございます。決して、このカタリ場をやればそれが実現するわけではありません。しかし、最も象徴的なプログラムとして、このカタリ場というものを昨年度から始めております。このカタリ場は来年度、全小中高で実施を目指して今動いております。今年度は既に4、5校程度実施しております。中学校にしましては、数校実施できない学校があるんですけども、その学校を除いてはほぼ100%実施ができそうでございます。

この益田版カタリ場は昨年度から始めているんですけども、全く同じものを行っているのではなく、毎年成長しております。今年度大きく成長したこととしましては、4つポイントがございます。1つ目は、昨年度まではどうしても、益田のとても輝いている方、社長さんであったりとか、非常に著名な方の参加が多かったんです。今年度は、その著名な方もなんですけれども、それに加えて、私なんてそんな恥ずかしくてできませんというような方も含めて、どのような方でも参加できるようにしました。条件はただ1つ、日々を前向きに生きている、それだけです。日々を前向きに生きている方であれば、誰でも参加できるように門戸を開きました。それが地域の大人です。

2つ目のポイントとしましては、この益田版カタリ場、簡単ではないんです。たった120分間の授業の中で、子どもたち6人を1人が担当

します。皆さん想像していただきたいんですけども、今から目の前に知らない中学生、高校生が6人現れます。その6人を120分間の授業の間で心に灯をともせますか。かなり難しいんですね。ただ一方的に大人が講話するのは簡単なんですけども、カタリ場で大切にしているのは対話です。私たちが一方的に指導であったりアドバイスをするのではなく、むしろ中学生、高校生と視点を合わせながら、お互いフラットな関係で思いの共有をするという時間です。その授業をするのはかなり大変なんです。ですので、それをやるに当たってかなりのスキルであったり力が求められます。なので、今年からは、できる人だけではなく、むしろ若手をどんどん参加させることによって、大人も成長できる、そのような場づくりを非常に意識しております。ですので、今年度は、まずは市役所の中からはなんですけれども、市役所の中の若手の職員を多くこの授業に参加させることによって、大人自身も成長できる場づくりというのを意識しております。

3つ目が、去年まではしてこなかったこととしまして、アンケート調査の実施、そして今皆さんの手元にある報告書というものを作るようにしました。なかなか教育の中では数値化するのはよくないことであったり、避けられる傾向があるんですけども、私たちは逃げずに、今回報告書を作ることを実施しました。その結果、全てを紹介することは難しいんですけども、最後のページに、カタリ場を通して益田の大人のイメージが良くなったという項目がございます。益田市には魅力的な大人が多いという項目、事前、事後の変化が非常に大きいです。元々86人中36人が、益田には魅力的な大人がいないと答えていたんです。それが、たった120分間の間に88人中66人、なんと30人もの生徒が、新たに益田には魅力的な大人がいるというふうに答えたんです。これはただ数値だけではなく、その下に自由記述があるんですけども、非常にこれは印象深くて、大人で良い人がいるんだなと知りましてとか。このような感想はまさに子どもたちの本音だなと思っています。このような大人と出会えることが、いずれは益田に戻ってくる種まきになるんだろうなと私たちは信じております。

そして最後、4つ目です。4つ目としまして、このような活動は益田だけではなく全国で戦っていけるようなプログラムだと考えています。カタリ場という事業は日本のいろんなところでしているんですけども、そのカタリ場の担い手が地域の大人、そして全小中高で実施を目指しているのは、全国で益田だけです。この益田版カタリ場、そしてライフキャリア教育は、全国で戦っていけると思っておりますので、今年度から広報をかなり強化させております。このような動画を作って、フェイスブック等で、それから益田市の公式ユーチューブ等に登録しております

で、今どんどん発信しております。既にその結果がもう出ておりまして、今年度の中にいろんな所が視察をしたいということであつたり、講演をしてほしいという依頼が来ております。先月も、わざわざ沖縄からライフキャリア教育というものを見たいというふうに元教育長の方が来られて、視察に来られました。私たちは、このような活動がいずれ、なかなかすぐには数値にはならないんですけども、いずれ益田の子どもたちが高校卒業後出たとしても必ず帰ってくると信じて、今後も進めていきたいと思っております。

青木主事 もう一つ報告書のほうがあるかと思いますが、そちらについても動画のほうを見ていただけたらというふうに思いますので、ご覧いただければと思います。

《取組についての動画を視聴》

榎コーディネーター こちらも軽く紹介をしたいと思っております。昨年度までは、ひとつづくりに関しましては、カタリ場と職場体験が中心になっていたんですけども、そのカタリ場と職場体験をした結果、子どもたちの心に灯をともすことはできました。子どもたちや大人の心に灯をともすことはできたんですけども、一つの課題として、それが単発で終わってしまっている、心に灯がともった後に、では何かしてみよう、そのようなことを本気で考える時間がなかったんです。その反省を踏まえて、今年度から新たに始めたこととしまして、津和野町と吉賀町の教育委員会さんと一緒にしていることなんですけれども、今年の8月に実施しました「ミーティングしますか!!」ということで、先ほどの動画にありましたが、1日かけて子どもたちが、今本気でしたいことは何だろうか、そして今私たちが何ができるだろうか、そのようなことを1日かけて、それを私たちはマイアクションというふうに呼んでいます。そのマイアクションを1日かけて考えるというイベントを実施しました。

そして、これは中学生が対象だったんですけども、この秋以降は、1日だけではなく、学校外活動、地域活動として高校生が、自分が何かやりたいと思うような自分のプロジェクト、マイプロジェクトというふうに呼んでいるんですけども、マイプロジェクトを自分なりに考えて、地域の大人と協働しながら、何かアクションをしながら生き抜く力を身に付けていく。そのような活動も今後、昨年度はできなかったもので、今後は強化してどんどんやっていきたいと思っております。そのような活動が、いずれは学力のような数値的な見える力にもなっていくんだろうなと思っております。

青木主事 こういった様々な取組をしていく中で、ライフキャリア教育が推進しているのではないかなというふうに感じております。先ほど、舟橋委員さんからもありましたが、全国学力調査の子どもたちの意識調査

の中で、将来の夢や目標を持っているかどうかというところでも数値的にも上昇してきているところがありますので、少しずつ目に見える数字も出てきている、成果も出てきているのではないかなというふうに感じております。

今後の課題としては、事業ごとにアンケート等はとってきているんですけども、その数値を今後どのようにつなげていくかというところが課題かなというふうに思っています。点と点で終わりではなくて、事業と事業をつなげていくことも大事なかなというふうに思いますので、そこが課題だというふうに考えています。

柳井教育長 それでは、未来を担うひとづくりについて説明ありましたが、これについて何かご質問等ありましたらお願いします。

舟橋委員 これはこの夏に急に始まったというふうに受けとめていましたが、それは実はもっと前からあったんだということも後で分かりました。やっぱり我々にもっと先に、こういう計画をしているんだけど、どうなるか分からないという段階でも、少しでも広げていくと、ほかのほうにも、学校もそうですが、そういうことが伝わっていき、それが本当の根っこになって広がっていくんだと思うんです。不信感と言ったらおかしいですけど、どこがこれを言っているんだというふうなことを、問い合わせではないですけど、ある学校からも聞かれたことがありました。

ですから、私たち委員が知っていること、あるいは教育委員会のメンバーが知っていることってとっても大事なので、これからも周知徹底を図りながら、とても良い取組だとはものすごく分かっていますが、ちょっとあの時残念だったなというふうな思いもしています。是非ともこれから、子どもたちの自己肯定感なり、人を信頼する、自分をしっかり持つという力を育てるために続けていってほしいなというふうなことを思いました。

柳井教育長 ほかによろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

○文部科学省の機構改革について

柳井教育長 続いて、文部科学省の機構改革について、お願いします。

大畑推進監 お手元に2つ資料をお配りしておりますが、これは今文科省のほうで作られているもので、実は平成27年12月21日の中教審の3本の答申にのっとっての機構改革です。文化のほうもかなり活用とかっていうところに入っていて、総合的な教育改革を推進してきた、これ要するに中教審の3本の柱を踏まえた組織改革で、是非委員さんのご意見を聞きたいということがあります。

今週、県の教育長にも聞きに行こうかと思っているんですが、一つは、

今まで社会教育と青少年教育課というのが一つになって地域学習推進課というふうになるということで、社会教育法という法があるのにもかかわらず、実は社会教育という言葉が文科省の中から課としてはなくなるということを非常に危惧されておられます。私たちも、公民館を今後残し、社会教育の中でひとつづくりの基盤をしっかりとやっていこうというふうになっている中で、文科省がこう変わっていくと、県とかいろんなところが変わっていくのが常ですので、市として今後どういう位置づけでやっていくかというふうに、もしご意見があればお聞きしたいなと思っておりましたので、なかなか時間がないんですけど、後日またお聞きしたいと思いますので、是非ご検討をお願いしたいと思っています。

かなりの大きな機構改革であろうと思っています。学力調査も初中局から外されるということになったりとか、それから教員養成も、今回の3本の柱で、教員をいかに資質向上させるかという1本の答申についても総合教育政策局というところに位置づけるということになっています。社会教育のほうからすると薄まったのかもしれないし、主役なのかも分かりませんし、非常に曖昧な位置づけになっているなというのを感じているところです。これは率直にどうなんだろうかというご質問含めて、問題提起をまた返していこうかなと思いますので、ご検討をいただけたらと思います。

もう一つ、社会教育主事、渡辺委員さんからも社会教育主事の資格取得についてあったんですが、最後のページの一番下、今回の改革の目玉の一つに、あまり表には出てないんですが、社会教育主事講習と社会教育主事養成課程、要するに大学での養成を受けた人は社会教育士という称号を付与されるということで、何かと言いますと、社会教育主事という職名を名刺に書こうと思うと教育委員会が発令しなくてはならないということになるんですが、これを外すと、国家資格を持っていますよという、名刺に書けるということです。すなわち、そういう意味で社会的にもっともっと認知させるような、国家資格として位置づけたいという表れであるというふうに思っております。これをご提案させてもらったのは、31年から公民館が1つだけ残ります。今、社会教育委員の会のほうに諮問答申もしくは建議という形で、今後の公民館がいかにあるべきかということを考えてもらおうかと思っています。

もう一点は、教育委員の皆さんにもその意見を踏まえながらご検討いただいて、教育委員会として30年度の末、できれば12月までのところぐらいで、今後の公民館の在り方についてどうあるべきだということのご意見をまとめさせていただいて、それを踏まえて、31年の地区振興センターがなくなった暁には示しながらやっていかないといけないなと思っています。

その中で、主事等の資格をしっかりと取得させたいなと思つとることで、このように社会教育主事の資格も広く門戸を開かれるという形になっていきますので、今、浜田で社会教育主事B講習を衛星で受けられることになっています。昨年度、高津公民館の城市主事が受けに行きました。で、うちの職員も1名行きました。役所の特別研修という位置づけで行かせようと思っています。松江市ではこれを利用して公民館主事全員資格取得しておりますので、社会に開かれた社会教育主事講習になると思いますので、しっかりと受けさせていくということをやりながら、公民館の職員の資質向上を計画的にできたらなと思っていますので、また委員の皆さんのご意見をいただいて、教育委員会としてこれをやるんだということに進めていけたらと思っていますところです。

そうすると、浜田までの旅費を予算化するところについての裏づけがいきますので、公民館の在り方の中でやっぱり職員の資質向上が大事であるから、社会教育士という資格を得ながら、地域づくりのほうにも意見できるような存在になるべきだということで、資格取得者には手当をあげるとかっていうところまで含めて、そういうご意見を最後にまとめさせていただくためのスタートの情報提供だというふうにご理解いただけたらと思います。

柳井教育長 これにつきまして、ご意見等あればまた社会教育課にお願いしたいと思えます。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○平成29年10月学校給食献立について

柳井教育長 それでは、平成29年10月の学校給食献立について、お願いします。

山本課長 10月の献立でございますが、左下のほうにテーマを書いております。「好き嫌いしないでみんな何でも食べよう」ということでございます。中ほどに、好き嫌いを克服するポイントということでイラストを上げて示しておるところでございます。カレンダーのほうですが、11日を見ていただきますと、ここは西南中学校の生徒が考えた献立ということで行うということにしております。それから、6日が保小中連携の献立でございます。それから、30日が益田の食育の日ということで献立を考えております。

裏面に栄養士さんが給食時間の様子を紹介していただいております。今回は中学校編ということで、美都中学校のほうで行われておりますが、詳しく書いてありますので、またご覧いただきたいというふうに思っております。

柳井教育長 それでは、学校給食の献立について、ご意見等よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

(2) その他

柳井教育長

それでは、以上で本日の全ての内容について終わりますが、その他として何かありましたらお願いします。

城市参事

お手元に資料をお配りしています。今日、ご意見をお聞きしようと思っていたんですけども、最初に表のようなものがありますが、新学習指導要領のほうに移行するというので、今後、小学校において年間時数が35時間増えるということがあります。それに対応するための一つの方策を考えなくちゃいけないなということも学校教育課としては思っております。それに加えて、教員の多忙化の話もあります。要は、年間35時間増えるということは、週1時間の授業数が増えるということですので、今ある授業のコマの中に更に加えるということが必要になってきますので、多忙化にもつながってくるので、何とかならないかと考えています。

現行の小中学校の管理規則がありますけども、校長裁量で現在土曜日授業ができるようになっていきます。ただし、益田においては、土曜日授業については地域や保護者等と連携したものであることというふうに位置づけて、土曜授業をオーケーにしています。ですが、こういった土曜授業もいわゆる教育課程の中にきちんと位置づけて、先ほど言いました時数が増えることにも対応できるようにという柔軟性も必要じゃないかということも考えて、学校管理規則を少し改定するという方向で動いていくのかということも、また次回のところで事務局の考えをしっかりと出そうと思っているところです。今回は一応、情報提供ということでさせていただきます。

柳井教育長
教育委員

このことについてご質問等よろしいでしょうか。
＝全員了承＝

柳井教育長

次回の日程を決めたいと思います。次回は10月25日の10時から定例教育委員会を開催いたします。よろしく願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

終了時間 11時50分